

馬渡島沖洋上風力、環境や景観配慮を 事業者に知事意見提

佐賀県唐津市の馬渡まだら島と長崎県平戸市の的ヶ山あづち大島周辺の海域で、東京の民間企業が計画している大規模な洋上風力発電について、佐賀県は21日、環境影響評価（アセスメント）配慮書に対する知事意見を事業者に提出し、経済産業省にも送付した。

意見書では、騒音や風車の影、生態系への影響を避け、低減することを求めた。事業想定区域周辺に玄海国定公園があることや、日本の棚田百選に選ばれている「浜野浦の棚田」からの景観への影響を指摘し、住民などの意見を踏まえて評価することも要請した。

計画の実質的な事業主体は再生可能エネルギーの発電事業会社「INFLUX」（インフラックス）で、最大65基の風力発電機を設け、総発電出力は61万7500キロワットになるとしている。今後、事業者は実地調査の環境項目を選定し、方法書にまとめる。